

バラのナミハダニの薬剤防除効果

中村利宣・田中澄人・池田 弘 (福岡県農業総合試験場)

Toshinobu NAKAMURA, Sumito TANAKA and Hiroshi IKEDA : Chemical Control of Two-spotted Spider Mite, *Tetranychus urticae* KOCH, on Rose Plant.

バラの病害虫のうちハダニ類は防除が最も困難な害虫である。1983年から防除薬剤の検索を行ったのでその概要を報告する。

1. 試験方法

試験は筑紫野市大字吉木の福岡県農業総合試験場内で行い、直径30cmの黒色ビニールポットに植えたバラにナミハダニを接種し肩掛噴霧機または杓子型噴霧機で薬剤を十分量散布した。

接種したナミハダニは1983年は5月17日粕屋郡粕屋町、1984年は3月9日福岡市西区北崎でいずれもハウス栽培のバラから採集したものである。薬剤散布は1983年6月9日、'84年3月21日および'85年4月30日に行った。区制は'83年および'85年は1区1株で3区制、'84年は同様に2区制とし、いずれも1区3〜8葉にマークを付し散布前後の雌成虫数を数えた。

薬害試験は剪定後出葉した新葉を対象に行い、1984年9月27日にはプロチオホス乳剤1000倍、フルバリネート水和剤1000倍、ピナバクリル水和剤1000倍および水酸化トリシクロヘキシルスズ水和剤1000倍を、1985年7月10日にはピフェントリン水和剤800倍をそれぞれ散布し、4〜6日後に調査した。対象とした品種はアゼナ、アデロン、アールスメールゴールド、エキサイトメント、エリオラ、エンジェリック、カランボウル、キャラミヤ、キュート、ゴールデンエンブレム、サマンサ、サンタモニカ、サンドカン、サンドラ、シャンパン、ショーストッパ、ジャガー、ジェルロカミ、ソニヤ、ダッチェス、トボネ、ナタリー、ネオスター、バンザイ、バサディナ、バメラ、ブライダルピンク、プロミネント、マダムサチ、マダムピオーレ、マリーナ、ミスブランシュ、ミスユニバース、ミミローズ、メイコーラ、メロディフェアおよびヨーコである。

2. 結果および考察

1983年の試験ではピナバクリル水和剤の効果が高く、散布14日後も低密度であった。これに次いでキノキサリン系水和剤の効果が高かった (第1表)。

1984年の試験ではピナバクリル水和剤、キノキサリン系水和剤およびフルバリネート水和剤の効果が高く、散布17日後も低密度であった (第2表)。

キノキサリン系水和剤は1983年、'84年とも薬害が生じた。

1985年の試験ではピフェントリン水和剤の効果が高く、散布14日後もごく低密度であった。フルバリネート水和剤は7日後まで低密度であったが、14日後にはやや

密度が回復した (第3表)。

各品種の新葉に対する薬害ではプロチオホス乳剤、ピナバクリル水和剤および水酸化トリシクロヘキシルスズ剤でほとんどの品種に薬害斑を生じ、中でもアデロン、キャラミヤ、シャンパンはややひどい傾向があった。フルバリネート水和剤はすべての品種で明らかな薬害は認めなかった。ピフェントリン水和剤はダッチェスで薬のちぢれを認めたが他の品種では認めなかった。

以上の結果、フルバリネート水和剤1000倍およびピフェントリン水和剤1000倍は効果も高く、薬害も認められないので普及性があるものと考えられる。

第1表 ナミハダニに対する薬剤防除効果 (1983)

薬 剤 名	複葉当たり雌成虫数			
	散布前	1日後	4日後	14日後
クロルベンジレート乳剤	10.5	4.7	7.9	13.4
ベンゾメート乳剤	5.9	6.1	10.7	37.8
テトラジホン・ケルセン乳剤	17.5	13.4	13.6	16.2
DDVP・CPCBS乳剤	18.8	12.0	21.2	64.5
CPCBS・クロルプロピレート乳剤	11.5	7.9	12.2	33.4
ポリナクチン複合体・CPCBS乳剤	18.2	8.5	11.5	16.4
酸化フェンブタスズ水和剤	10.1	5.4	10.0	32.3
水酸化トリシクロヘキシルスズ水和剤	4.7	1.2	2.0	24.2
マシン油乳剤	16.7	5.5	4.9	96.1
プロチオホス乳剤	10.4	1.3	2.6	80.1
スルプロホス乳剤	20.5	2.6	5.3	43.4
キノキサリン系水和剤	19.4	2.7	2.9	10.5
ピナバクリル水和剤	33.8	8.2	1.0	2.7
無 散 布	16.5	12.9	17.3	101.1

注) 薬剤の希釈倍数: テトラジホン・ケルセン乳剤は500倍、マシン油乳剤は100倍、他は1000倍

第2表 ナミハダニに対する薬剤防除効果 (1984)

薬 剤 名	5〜8葉当たり雌成虫数			
	散布前	3日後	5日後	17日後
フルバリネート水和剤	75.0	0.5	1.0	9.5
アゾシクロチン水和剤	31.5	3.0	0	38.5
S-3206乳剤	59.0	0	6.0	35.0
キノキサリン系水和剤	94.5	0	2.0	1.0
ピナバクリル水和剤	124.0	1.0	0	2.0
無 散 布	23.5	8.5	12.5	57.5

注) 薬剤の希釈倍数: すべて1000倍

第3表 ナミハダニに対する薬剤防除効果 (1985)

薬 剤 名	小葉当たり雌成虫数			
	散布前	2日後	7日後	14日後
アミトラズ乳剤	7.0	5.0	5.2	5.0
フルバリネート水和剤	5.6	1.2	1.2	2.4
ピフェントリン水和剤	8.7	0.3	0.1	0.1
無 散 布	8.6	8.6	6.4	4.9

注) 薬剤の希釈倍数: フルバリネート水和剤は2000倍、他は1000倍